

平成 28 年度第 2 回土佐清水市総合教育会議 会議概要

■開催日時：平成 28 年 11 月 22 日（火） 15:57～（16:53 終了）

■開催場所：市役所 2F 市長応接室

■出席者

構成員：泥谷市長、竹田教育委員長、山下教育委員、三浦教育委員、山本教育委員、弘田教育長
オブザーバー：磯脇副市長

事務局：早川課長、中津課長、山際課長補佐、横山課長補佐

◇会議次第【司会進行：早川課長】

1 開会【泥谷市長あいさつ】

2 議事

（1）「全国学力・学習状況調査」の結果報告について

【中津学校教育課長説明】

今年度実施した「全国学力・学習状況調査」は、小学校（6 年生実施）では国語、算数ともに『A（基本問題）』では全国平均を上回ったが、『B（応用問題）』は全国平均を下回った。中学校（3 年生実施）では国語は『A』『B』ともにほぼ全国平均と同程度であったが、数学は『A』『B』ともに全国平均を大きく下回った。特に国語は昨年に比べ上昇した。今回の中学 3 年生の 3 年前（小学 6 年生当時）の成績と今回を比較すると、国語は全国との差が大きく縮まったが、逆に数学は差が開いた。

※ この結果から、小学校では基礎はできているが応用ができていないというのが課題。今回のテストの問題ごとの出来・不出来について今後分析し対応していく。中学校では、既に数学の強化部会を発足し検討している。他県の先進事例を参考に、数学については、受け持ち担当クラスをこれまでの「横持ち」から「縦持ち」の形を来年度から導入する予定。この方法は生徒にはもちろんのこと、教員のレベルアップにもつながる。（福井県等で成果があり、今年中に視察を予定）成果ができれば、他の教科にも導入していく。また来年度以降、「ジョン万のふるさと」の名に恥じぬよう、小学校の英語教育にも力を入れていく。これまでの実績・課題等をふまえ、H28～H29 年の 2 カ年の後期計画を策定したことから、引き続き「ふるさとを愛し、ジョン万スピリットを持った心豊かな人間づくり」を基本理念として、教育全般に取り組んでいく。

（2）高等学校再編に伴う清水高校高台移転について

【中津学校教育課長説明】

県では平成 26 年から平成 35 年までの 10 年間の「高等学校再編振興計画」（前期 H26～H30、後期 H31～H35）をたてている。この計画は少子化に伴う生徒数の減少に対する学校規模の適正化や地震・津波対策に伴う教育環境整備などを盛り込んだもの。現在、「高知南中・高校と高知西高校の統合」、「須崎高校と須崎工業の統合」について積極的な取組がなされている。この計画の後期計画で、清水高校が中山間地域校、南海トラフ地震対応検討校に指定されており、高台移転の検討校として位置付けられている。県も早期高台移転を検討していきたいとのこと。

※ 清水高校は立地条件や市内で他に高校がないということから特別に指定（学校規模の基準の 2 つの過疎に該当）されていることから、生徒数が減少しても一学年 20 人をキープできれば学校は残す

こととされている。現在、清水中学校と清水高校との中高一貫教育にも取り組んでおり、今後も更に取組を強化する必要があることから、土地取得の問題もあるが、現在の中学校付近への移転が望ましい。清水中学校も少子化に伴う生徒数の減により、空き教室等の未利用スペースがあり、その部分を清水高校と共有化できれば、効率的な施設の活用が図られる。全て現中学校施設を活用することは無理だが、活用できるところは活用できるとなると、高校（県）としては高台移転に要する経費を圧縮できる。どの程度利用可能かということを今後検討していく必要があり、市長部局と教育委員会部局が連携し、県と協議を行っていく。

(16:53 会議終了)